

2022.11/24

※番組は
随時更新

放送ライブラリー視聴サービス 番組リスト

放送局	番組タイトル	概要	放送日	再生時間
NHK	この一年 1969年ニュースハイライト	沖縄返還きまる（佐藤首相・ニクソン大統領）、佐藤訪米（佐藤・ニクソン会談）、大学紛争（東大安田講堂解放、京大紛争）、大学法成立、大学法による機動隊導入、アポロ11号月着陸、東名高速道路開通、人口甘味料チクロ問題、子供の誘拐殺人事件（江東、渋谷）、ピストル射殺事件犯人逮捕、初のテレビ政見放送など昭和44年のニュースハイライト。	1969.12.30	57分
NHK	ルポルタージュにつぼん 洞窟（がま）に戦世（いさゆ）をみた 沖縄・38年目の収骨	住民の4割、1500人もが犠牲となった太平洋戦争の激戦地・伊江島で、厚生省と沖縄県による38年ぶりの遺骨収集が始まった。地下十数メートルの洞窟から、集団自決した住民たちなど195柱の骨が収集された。全島ではまだ1万柱以上が地下に眠っているという沖縄の戦争の傷跡を、遺骨収集を通して探る。	1983.04.21	30分
琉球放送	遅すぎた聖断 検証・沖縄戦への道	20万人以上の戦没者をだした沖縄戦へいたる過程を、戦後発表された資料や証言からあらためて検証、沖縄戦の意義を考える。◆1945年8月15日、玉音放送によって太平洋戦争は終わった。しかし、沖縄での戦闘は継続し、9月7日沖縄部隊の降伏調印をもってようやく終結した。◆沖縄戦の始まる2カ月前、近衛首相はすでに「敗戦は必至」と昭和天皇に上奏している。戦争終結の“聖断”が、せめてこの段階でなされていれば、という思いはいまも強い。	1988.06.25	40分
琉球放送	映像ドキュメント 首里城	第2次世界大戦で焼失した首里城正殿が、1992年秋に47年ぶりに甦った。沖縄県民にとって首里城正殿の復元は国の重要文化財の復元と言うだけにとどまらず、沖縄のアイデンティティを思い起こさせる作業でもあった。首里城跡の発掘調査から完成までの歳月と首里城に関わった多くの人々の思いを映像ドキュメントでつづる。	1992.11.02	52分
琉球放送	戦争マリア 八重山群島強制疎開の証言	1945年（昭和20）から八重山群島で爆発的に流行したマリアは軍の命令での疎開に原因があるとして、沖縄県は国に遺族補償を求めた。この「革命」の存在を裏付ける史料を検証しながら、体験者の証言を交えて当時の悲劇を伝える。◆沖縄本島から南西に450キロ、青い海のただなかの美しいサンゴ礁の島々・八重山群島にはマリアとの戦いの歴史がある。16世紀初頭のオランダ船漂着以来流行を始め、18世紀には琉球王朝による開拓もマリアに阻まれている。マリア原虫を媒介するハマダラ蚊は山間部に多く、有病地として人は住まなかった。ところが1944年石垣島に空襲があり、軍は戦争遂行のため住民に強制移住を命じた。結果として住民の1割がマリアで亡くなっている。	1992.06.22	49分
琉球放送	ムーブ2003 親子はそれぞれの戦場で…	イラク戦争を体験した若手フォトジャーナリストが、多くの人々の目となって戦争の実態を伝えようと奔走する姿を描くドキュメンタリー。◆親泊健さんは2003年、戦時下と終戦直後のイラクを1ヵ月半にわたって取材した。撮りたい写真を撮るために通信社などとは契約せずに撮影した。帰国後は写真展や講演に取り組んでいる。親泊さんの父は沖縄戦を生き抜いた。目が不自由だが、激しい砲撃、散乱する遺体の中を逃げ回ったことを、音と臭いで記憶している。息子のイラク取材に最初は反対だったが、新しい戦争体験者として平和を訴える活動を理解し始める。	2003.12.22	25分
琉球放送	復帰40周年特別番組 沖縄と自衛隊 —40年と今—	1972年の「本土復帰」とともに、沖縄に駐屯を開始した自衛隊。しかしその実態を知る人は限られている。復帰40年、沖縄の自衛隊も40年。那覇に駐屯する陸海の自衛隊の訓練の現場を取材し、その現状に迫る。そして復帰前後の自衛隊駐屯をめぐる歴史を振り返り、さらにここ数年で進んでいる沖縄の自衛隊の体制強化について伝える。国際情勢の変化に対応するとして、大きな変化の中にある日本の防衛。その変化の中心は沖縄であった。	2012.05.24	47分
琉球放送	RBCザ・ニューススペシャル 慰霊の日 戦後69年 私たちの眼差し	戦後69年の沖縄・慰霊の日。「RBCザ・ニュース」では、戦後生まれの記者たちが自分の家族や親しい人々に沖縄戦について聞き、取材者が自らの言葉で伝えるという特集をシリーズで放送してきた。その中から「祖母の決断“生きたい”」「そこは戦場だった“元学徒とたどる道”」「亡き学友への思い」「戦争体験を語る元看護学徒の思い」「絵本で沖縄戦を語り継ぐ」の5本の特集をおくる。	2014.06.23	48分
琉球放送	終われ戦世 ～証言記録 太平洋を越えて～	戦争の傷が今も癒えない人が大勢いる。終われ戦世（いさゆ）…人々の心からの願いを記録した番組。すべてを失うことになった沖縄戦の実態を、様々な立場の幾人もの眼差しを通して多角的に見つめる。琉球放送創立60周年特別番組。◆1945年はいわば「戦後ゼロ年」。慶良間諸島に米軍が上陸した3月末から、地獄絵のような地上戦が数ヵ月間にわたり展開した。沖縄は田畑も家も村も人も、何もかもが焼き尽くされてゼロになった。沖縄戦の実態は、県史や市町村史の戦時記録などを作る過程で膨大な数の住民証言が調査・記録され、細部まで掘り起こされてきた。しかし、死角のように見逃されてきた人たちがいる。例えば、元米兵の証言は住民と比べて圧倒的に少なく、沖縄戦を戦った米兵たちの人間性は意外にもほとんど明らかにされていない。また、1940年代の沖縄は10人に1人が移民していたという「移民県」だった。にもかかわらず、移民2世の戦争体験はあまり知られていない。海を越えて戦場はつながっている。番組では戦争を生き延びた人たちの心からの叫びを聴き、大切な言葉のひとつひとつを記録する。	2014.11.01	104分
沖縄テレビ放送	悲しいほど海は青く 沖縄戦最後の県知事 島田叡	第二次世界大戦末期の1945年1月31日、アメリカ軍の上陸が間近に迫った沖縄に県知事として赴任した島田叡。わずか5ヶ月の任期にもかかわらず「沖縄の島守」と呼ばれるほどに県民に敬慕の念を残した彼の真実を追う。◆当時の状況からすれば「沖縄で死んでくれ」と言われたに等しい打診に即応した島田は、反対した家族を「自分が死にたくないからといって、誰かに代わりに行って死んでくれ」とは言えない」と説得したという。米軍上陸が始まり、地獄の戦場へと変わっていった沖縄。降り注ぐ砲弾を避けながら、壕を転々として行政機能の維持に奔走した。島田知事の最期はいまだ謎とされている。	2003.05.28	47分
沖縄テレビ放送	FNSドキュメンタリー大賞 むかし むかし この島で	沖縄戦を記録したアメリカ軍のフィルムを検証し、その場所と人物を特定して、惨く悲しい戦争のあいまに記録された「笑顔」を届けようとする作家の活動を通じ、封印されていた数々の「真実」を伝える。◆あの激しい戦闘から60年。数千本にもわたる記録フィルムの検証を続けるドキュメンタリー作家・上原正稔さんは、「フィルムの中の主人公たちにこの映像を届けたい」と強く思ってきた。調査の結果、沖縄各地で1年半にわたって上映会が行われることになった。	2005.10.31	48分

放送局	番組タイトル	概要	放送日	再生時間
沖縄テレビ放送	戦争を笑え 命ぬ御祝事さびら！沖縄・伝説の芸人ブーテン / 第20回民教協スペシャル	「ヌチヌグスージサピラ（命のお祝いしよう）！」と人々に声をかけた謎の天才芸人ブーテンの知られざる人生を追跡、秘められた人間像と“笑い”に託した思いを伝える。◆「沖縄のチャップリン」と呼ばれ、戦後、沖縄芸能を支えた多くの芸能人たちがブーテンの影響を受けて育ったという。暗い顔をした人々に投げかけた「命のお祝いしよう」という言葉にこめた思いとはなんだったのか。	2006.02.11	47分
琉球朝日放送	日米関係 キーワードは「オキナワ」 秘密文書が明かす 沖縄返還	沖縄返還25年の節目に公開されたアメリカの公文書と当時の関係者の証言から、日米両国そして沖縄の3者からの視点で「沖縄返還」とは何だったのかを検証する。	1997.05.17	49分
琉球朝日放送	テレメンタリー2000 語る死者の水筒 ～さまよう沖縄戦の遺品～	沖縄「平和祈念資料館改ざん事件」のはざままで展示されなくなった旧資料館の遺品の行方を、遺品を集めた男性の姿を通して追う。◆戦後一貫して沖縄戦の悲惨さを訴え、基地との共存に異議を唱えてきた沖縄。しかし1999年「刺激的な展示は好ましくない」と行政当局が監修委員に無断で新平和祈念資料館の展示内容改ざんを指示し、沖縄県民の大きな怒りを買った。そんな中、弟を戦争で失った男性が、戦後執念で集めた「当時の水が入ったままの水筒」や「砲弾を受けた子供の着物」「パラシュート製のウェディングドレス」などを旧資料館から引きあげた。「魂のない新資料館」には展示しても意味がない。あの戦争の実態を明らかにするのは自分しかない。彼は孤独な戦いを再開した。	2000.08.27	25分
琉球朝日放送	刻みはじめた学びの時計 ～夜間中学生1000日間の記録～	沖縄に、長年待ち望まれていた夜間中学が誕生した。戦争や戦後の混乱で、義務教育を終えることができなかった人たちに開かれた学びの場。平均年齢70歳の「同級生」たちが勉強を教え合う姿に、読み書き計算ができないまま生きてきた人たちの負い目、学ぶことへの熱望を見る。学校とは何か、教育とは何か、「学ぶ」ことの意味を問いかける。◆本土には戦後すぐに夜間中学が設立されたが、沖縄はずっと見過ごされてきた。27年間のアメリカ軍による統治、祖国復帰後も続いた基地問題、山積する戦後処理に埋もれ、本来持っているはずの権利を行使できないまま見過ごされてしまった義務教育未修了者たち。国語は50音から。初めての「同級生」と行く遠足。しかし、この夜間中学は民間設立だったため、公式の卒業証書が出ない。学んだことを認めてほしい、生徒たちが始めた署名活動は、やがて議会を動かした。	2008.06.21	49分
琉球朝日放送	テレメンタリー2009 狙われた海 ～沖縄・大浦湾 幻の軍港計画50年～	1995年の米兵3人による暴行事件をきっかけに沖縄の基地反対の怒りが燃え上がり、日米両政府は普天間基地の返還に踏み切った。当時の理解はそうであったが、しかしそれは以前から米軍がもくろんでいた海上基地を日本側の負担で建設するための方便に過ぎなかった。軍事的植民地状態に置かれて60年余、かつては基地建設に反対していた地域の漁師たちが、なぜいま声を上げることができなくなっているのか。大国の思惑の影で生きる誇りすらむしばまれていく現状を切りとる。◆1962年、米軍は突然、沖縄県名護市の大浦湾を爆破した。「軍港を作る気だ」と直感した漁師らは反対運動に立ち上がった。当時の新聞記者も、原子力潜水艦も入港できる一大軍港計画があることを見抜く。それは1966年に作られたアメリカ軍の資料で詳細まで明らかになった。しかもそれが、1995年の暴行事件の直後に「普天間代替施設」として復活し、現在進行中の辺野古の基地建設計画のベースになっていることを示唆するメールも入手。当時立ち上がった老漁師と、基地経済にからめとられる現代の漁師を対比しつつ、日米安保の犠牲を強いられる地域で必死に生きる人々の心情を描く。	2009.10.05	26分
琉球放送（ラジオ）	ラジオバラエティー かえうた・ざれうた・はやりうた	沖縄の鳥歌、流行歌、軍歌などの替え歌の背景にあるものは何か。沖縄言葉の解説をまじえながら、戦後36年の歳月を経てもなお戦争と縁が切れない沖縄庶民の姿を、歌を通して浮かびあがらせる。	1981.06.29	40分
琉球放送（ラジオ）	慰霊の日特別番組 終戦62年 重い記憶 少年少女が見た戦争	「少年少女が見た戦争」をテーマに、現在70歳前後の方達が戦争体験を若い世代に語り継ぐ番組。正午の黙とう、この日行われた沖縄全戦没者追悼式のレポートに続いて、当時7歳だった女性の疎開船の記憶、当時7歳だった男性のテニアンでの戦争体験を聞く。そして、一人語り「おろせない荷物」（作：上原直彦、語り：北村三郎）では、沖縄戦を体験した初老の男が、平和学習の宿題をする孫のために、少年の目で見つめた戦争を語る。また、番組の中で平和を詠んだ短歌、児童・生徒による平和作文も紹介する。出演：狩俣倫太郎、宮城麻里子、比嘉俊次、比嘉真史	2007.06.23	85分
琉球放送（ラジオ）	消せない記憶 ～元学徒兵の苦悩～	日本で初めて中学生が戦争に駆り出された沖縄戦。終始軍隊と行動をともにした少年たちは壮絶な体験をした。その多くが尊い命を落としたこともさることながら、生き残った少年たちも心に深い傷を負い、戦後を生き抜いてきた。今年90歳の宮平盛彦さんは当時県立第一中学校2年生の14歳だった。終戦を知らず島内を数ヶ月もさまよって続けた宮平さんは、たどり着いた壕で日本兵が日本兵を殺害する現場を目撃する。この辛い記憶は今でも宮平さんを苦しめ続けていた。戦争は命を落とした人々の人生を奪っただけでなく、生き残った人たちにも一生拭うことのできない苦悩を残したのだ。当時一緒に壕を出た他の日本兵を探し、亡くなった2人の日本兵を弔いたいと思った宮平さんは新聞に人探しの記事を掲載した。すると、亡くなったひとりである日本兵の遺族から連絡があった。謝罪の手紙を通じて遺族と交流するようになった宮平さんだが、自身の中で戦争は終わらないと話す。	2018.09.29	57分
ラジオ沖縄	アートパレット特別企画 ニシムイ 絵筆に復興を託した男たち	1945年、国内で唯一の地上戦となった沖縄では、戦前の豊かな芸術も歩みを止めるしかなかった。だが1949年、終戦直後で物資も乏しく貧しさに打ちひしがれていた沖縄で開催された美術展「第1回沖展」に、2日間で1万5千人が訪れた。なぜ多くの人が美術展に足を運んだのか、紐解いていく。◆戦後沖縄美術の始まりは「ニシムイ」だと言われている。ニシムイは那覇市首里にあった美術村で、戦火を逃れ、命を繋いだ芸術家が集い、お互いの暮らしを助け合いながらも制作活動を行っていた。彼らは米軍施政権下で葛藤しながらも絵筆を持ち続ける。ニシムイの画家たちは制作をすることで自らの人生を想い、沖縄の復興を願い、沖縄美術の再興、発展を願った。そんな彼らの思いこそが、第1回沖展に多くの人が足を運んだ理由だった。◆戦後70年、依然続く沖縄ブームの中で沖縄らしさが安易に語られる日常に向けて、アンチテーゼがニシムイの画家たちの生き方から見えてくる。	2016.05.31	37分
ラジオ沖縄	特別番組 音旅オキナワN歴史 音でたどる沖縄の潮流	太平洋戦争末期、沖縄では日本で唯一の激しい地上戦が展開され、戦闘に巻き込まれた住民は「鉄の暴風」と呼ばれた砲弾の嵐の中を逃げ惑い、県民の4人に1人が犠牲となった。戦後も悲劇は終わらず、米軍占領下の沖縄では軍に強制的に土地を奪われ、そこに巨大な米軍基地が建設されていった。様々な音声記録で沖縄の歴史のターニングポイントとなった時代に遡り、沖縄の基地問題を見つめていく。◆前半は本土復帰前、ベトナム戦争中に起きた爆撃機の墜落炎上事故、祖国復帰運動、コザ騒動などを振り返る。時は流れて1990年代、米兵による少女暴行事件が起き、復帰後も変わらぬ問題が浮き彫りにされた。この後、普天間基地返還合意が発表されたが、新たな海上基地建設をめぐる県民は翻弄され続ける。	2017.05.27	30分
ラジオ沖縄	ピースビルダー ～垣根をこえて～	戦後74年、歴史の風化が課題となる中で、戦争の記憶を次世代につなげようと行動を続ける戦後生まれの人たちがいる。番組では、「ピースビルダー」（平和を築き上げる人）を育てることを使命に活動するハワイ在住の被爆2世の女性・ピーターソンひろみさんの人生に焦点を当てながら、沖縄出身の若いピースビルダーたちの思いも伝えている。◆被爆2世のピーターソンひろみさんは、故郷を離れ、家族の反対を押し切ってアメリカ人の夫と結婚した。彼女が平和への思いを強めていったその過程にスポットを当てながら、これからの平和教育において必要なことを考える。ひろみさんが蒔いた平和の種が、次世代へと受け継がれる様子を追った。	2019.05.28	43分

放送局	番組タイトル	概要	放送日	再生時間
ラジオ沖縄	ラジオ沖縄報道特別番組 私宅監置・沖縄 ～扉がひらくとき～	2018年春、沖縄県北部に実際に使用していた「私宅監置」の小屋が現存することが公表された。自宅敷地内の小屋などに精神障がい者を閉じ込める私宅監置は、1900年の精神病患者監護法で国の許可のもとに行われた。戦後、本土では禁止されるが、沖縄では本土より22年も長く続いた。精神医療の遅れ、米軍統治、貧困など、沖縄独特の背景が招いた悲劇だった。沖縄での精神障がいの発症は多かったのか、原因は何なのか。そこには戦争の影響が否定できない。おだやかな県民性さえも関係する。名護市の保健所職員、波照間島の当時の国民学校生らは、私宅監置の状況を生々しく証言する。高齢化で私宅監置の闇を知る人が少なくなる中、今年4月、沖縄県精神保健福祉会連合会が私宅監置の展示会を開催し、最終日のシンポジウムでは、精神障がい者とその家族が壮絶な体験を語った。そして、その一人は最後にある決意を口にする。闇を光に変えるために。二度と繰り返さないために。これから何が出来るのか。今も隔離収容性が高い日本の精神医療の源流であった私宅監置。私宅監置の本当の扉は、どこにあるのか。	2018.05.28	60分
エフエム沖縄	F o r P M トヨタサウンドロード 慰霊の日企画 さとうきび畑	平日午後4時からの生番組「F o r P M」内コーナーの特別企画。番組では平和への願いを託して森山良子『さとうきび畑』をオンエア、リスナーからの平和へのメッセージを紹介してきた。この日は、本土復帰30周年の節目の年、沖縄慰霊の日を前にして、ひとりの戦争経験者のリアルな証言とその思いをつたえる。	2002.06.21	25分
NHK	壕は語る ～沖縄・埋もれた傷痕～	48年前の沖縄戦。沖縄本島にある自然洞窟や旧日本軍の陣地壕跡には、多くの遺骨や遺品が埋もれたままになっている。53歳になる男性は、30年にわたってこうした洞窟や壕に入り、戦争で犠牲となった人々の遺骨を掘り出している。今も沖縄に残る戦争の傷痕を探る。ワンダーランド九州。	1993.01.28	28分
NHK	N H Kスペシャル 沖縄23万人の碑 ～戦後50年目の祈り～	1995年6月23日、戦後50年となる沖縄慰霊の日。沖縄戦最後の激戦地となった糸満市摩文仁の丘に、戦争の犠牲者23万人余りの名前を刻んだ「平和の礎（いしじ）」が完成した。この世界最大の慰霊碑を造るための戦没者調査の様子などを通じ、平和へのメッセージを伝える。	1995.06.25	50分
NHK	E T V特集 沖縄・戦世の記録 1 フィート映像の証言〔1〕 戦場の住民たち	沖縄の「沖縄戦記録フィルム1 フィート運動の会」が制作した「ドキュメント沖縄戦」を手がかりに、2夜にわたって歴史の重みをひもとく。◆1983年に発足した同会は、アメリカの国立公文書館に保存されていた沖縄戦関係のフィルムを12年かけて地道に取り寄せてきた。最大の激戦地だった南部戦線や、住民の半数が亡くなった伊江島など、映像に残されたひとりの姿を伝える。	1995.06.26	46分
NHK	E T V特集 沖縄・戦世の記録 1 フィート映像の証言〔2〕 日本とアメリカのはざままで	沖縄の「沖縄戦記録フィルム1 フィート運動の会」が制作した「ドキュメント沖縄戦」を手がかりに、2夜にわたって歴史の重みをひもとく。◆1983年に発足した同会は、アメリカの国立公文書館に保存されていた沖縄戦関係のフィルムを12年かけて地道に取り寄せてきた。最大の激戦地だった南部戦線や、住民の半数が亡くなった伊江島など、映像に残されたひとりの姿を伝える	1995.06.27	46分
NHK (ラジオ)	ドキュメンタリー 60年目の“ひめゆり”	沖縄県糸満市にある「ひめゆり平和記念資料館」、毎年観光客や修学旅行の学生が訪れる。その資料館で働いているのは、戦争当時、戦場で兵士や人々を救護していた元「ひめゆり学徒隊」。彼女たちも戦争で多くの仲間を失い、思い出したくないつらい記憶が残っている。しかし彼女たちはあえて当時を語る道を選んだのだ。戦争の記憶を伝え続ける彼女たちの資料館に一人の戦争体験のない若い女性が説明員として就職した。そして知識だけでなく「ひめゆりの心」も受取ってほしいと願うひめゆりたち一人一人の人生を心にきざみこんでいく。◆第60回芸術祭参加番組（10月23日放送）	2005.06.18	40分
NHK (ラジオ)	ラジオ深夜便 いま戦争を考える 平和な明日を築くために なぜ家族を殺したのか	戦争体験者の生の声を伝えるインタビューシリーズ。沖縄県の宮城さんと座間味島を訪ね、現場となった壕で集団自決の話や。昭和20年3月23日、慶良間諸島への艦砲射撃が始まり、小学5年だった宮城さんは家族と壕へ隠れた。26日に米兵が上陸を開始。米兵の残虐さを教えられていた住民たちは、パニックの中で手榴弾による集団自決を選んだ。宮城さんは生き残るが、死に切れなかった人々の他の手段で自決していく様子を目撃した。筆舌に尽くし難い場面にも遭遇したが、感情を失い、何も感じなくなっていた。人間は神にもなれるし悪魔にもなれる、と語る宮城さんは、戦争の残酷さを伝える手記を書き続けている。（インタビューの部分のみを収録）	2006.08.10	36分
NHK (ラジオ)	ラジオ深夜便 明日へのことば 沖縄戦の体験をのりこえて〔1〕 安田未知子	東京生まれの安田未知子さんは、現在沖縄県うるま市の介護老人保健施設いづみ苑で苑長を務めている。8歳の時に両親の出身地である沖縄に渡り、その後沖縄県立第一高等学校に入学すると牛島中将の伝令役として戦争に参加した。戦時中の教育に対する不信感から教師になることを躊躇していたが、沖縄市の女性英語教官第1号となって定年まで小中学校の教師を勤めあげた。教職の傍ら、生活の厳しい生徒たちを自宅に引き取り世話をしたり、27歳から30年間大病を発症するなど、激動の半生を送ってきた安田さん。これまでの人生を振り返りながら、夢などについて聞いたインタビューを2回シリーズで送る（第1回）。	2014.11.10	40分
NHK (ラジオ)	ラジオ深夜便 明日へのことば 沖縄戦の体験をのりこえて〔2〕 安田未知子	東京生まれの安田未知子さんは、現在沖縄県うるま市の介護老人保健施設いづみ苑で苑長を務めている。8歳の時に両親の出身地である沖縄に渡り、その後沖縄県立第一高等学校に入学すると牛島中将の伝令役として戦争に参加した。戦時中の教育に対する不信感から教師になることを躊躇していたが、沖縄市の女性英語教官第1号となって定年まで小中学校の教師を勤めあげた。教職の傍ら、生活の厳しい生徒たちを自宅に引き取り世話をしたり、27歳から30年間大病を発症するなど、激動の半生を送ってきた安田さん。これまでの人生を振り返りながら、夢などについて聞いたインタビューを2回シリーズで送る（第2回）。	2014.11.11	40分

放送局	番組タイトル	概要	放送日	再生時間
ラジオ沖縄	ラジオ沖縄戦後70年特別番組 封印された三十一文字	1968年8月15日、終戦の日の夕方、一人の青年が自ら命を絶った。彼の名は真喜屋実蔵（まきやじつぞう）。6歳の時にある事故がきっかけで失明し、文学者を志して早稲田大学に入学するも、生活の困窮などから人生に幕を下ろした。大学時代の彼を点訳などで支えたのが、友人の塩谷さんだった。塩谷さんは盲学校の教員となり、晩年、真喜屋さんから預かっていた短歌や詩を集めて歌集『春想』を出版した。そして今年（2015年）2月、おきなわ文学賞の表彰式で、沖縄盲学校の生徒によって、真喜屋さんの作品が朗読され、封印が解かれた。戦後70年の節目に戦争の不条理を伝えるとともに、真喜屋さんと塩谷さんを通して、障害の有無に関わらず、共に生きる喜びを伝える。	2015.05.30	39分
ラジオ沖縄	ひめゆりの心 証言者たちの25年	今から70年前の1945年、沖縄で激しい地上戦が行われた。地元住民を巻き込んだこの戦争では、多くの県民が命を落とし、沖縄師範学校女子部と県立第一高等女学校の生徒ら222人は、「ひめゆり学徒隊」と呼ばれ、兵士の看護に当たった。大勢の学徒たちが犠牲となり、「戦争を二度と繰り返してはならない」という思いを次世代へ受け継ぐため、生き残った元学徒たちは、糸満市にひめゆり平和祈念資料館を作り、そこで証言員として来館者に講話活動を行ってきた。だが証言員の年齢は80代後半となり、講話活動は2015年3月で幕を閉じることになった。戦争体験者から話を聞く機会が減る中で、戦争を体験していない世代が受け継いでいくものは何なのか。証言員たちが残した「ひめゆりの心」を伝える。◆戦後70年ラジオ沖縄報道特別番組	2015.05.30	41分
琉球放送	草の根は叫び続ける ～中村文子1フィートの反戦～	教職を定年退職後に反戦・反基地の運動に身を投じ、友人たちから平和運動の鬼と呼ばれ、90歳の今も反戦・平和の行動力を失わない「沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会」事務局長・中村文子さんの姿を追う。◆「1フィート運動」と通称されるこの運動は、米国公文書館に保管されている沖縄戦記録フィルムを、県民のカンパにより1フィート100円単位で購入し平和運動に生かそうと、1983年に立ち上がった草の根の運動である。中村さんが事務局長を務めて17年になるが、沖縄戦の歴史を語る節目の日には、購入したフィルムをもとに制作した映画の上映会を開き、子どもたちへの語り継ぎを続けている。	2003.05.24	48分
琉球放送 (ラジオ)	希望と自信の鐘 沖縄愛楽園物語	名護市にあるハンセン病療養所、沖縄愛楽園。軍政下に置かれ、本土の施設よりさらに過酷な戦後をたどったその歴史に光を当て、今なお残る差別や偏見と戦う元患者たちの姿を追う。◆沖縄愛楽園には元ハンセン病患者患者400人余りが暮らす。ドイツ出身の占領軍医ロルフ・フォン・スコアブランド博士は、病氣と貧困と差別で悲惨な生活を送り、生きる希望を失っていた愛楽園入所者らに物心両面で援助の手を差し伸べ、さらに、祖国ドイツの人々の協力を得て、生きていく上での希望の象徴として「希望と自信の鐘」を贈った。博士が他界して10年余、沖縄サミット開催が決まり、愛楽園の人々はドイツ国民に感謝の意を伝えようと、ドイツ首相を園に招聘する運動を始めた。	2000.05.31	50分
J-WAVE	J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION ～STORIES OF OKINAWA～	沖縄戦の終結から74年目の「慰霊の日」に放送された特別番組。◆国内最大規模の地上戦となった沖縄戦の終結から74年、本土復帰してから47年を迎える2019年においても、沖縄は基地問題で揺れている。激しい地上戦の末、アメリカ軍の統治下におかれた沖縄で、ラジオはどのように始まり、どのような思いを込めて何を伝えたのか。戦後沖縄の歩み、本土復帰時の沖縄の様子、今の沖縄への思いを、戦後米軍が沖縄に開局したラジオ放送局で日本語アナウンサー第1号を務めた川平朝清氏から、息子であるジョン・カビラ氏へ、親子の対話と音楽という手法で、家族史なども盛り込みながら「次の世代へ語り継ぐ沖縄」をテーマに展開する。	2019.06.23	53分
NHK	日曜美術館 いさ世の画譜 丸木位里・俊 おきなわを描く	画家・丸木夫妻の、沖縄の地上戦を描いた「沖縄戦の図」が完成するまでを追ったドキュメンタリー。「原爆の図」で知られる丸木位里さん（83歳）、俊さん（72歳）夫妻は、沖縄に渡り、縦4m×横8.5mという大作に取り組んだ。「沖縄戦を描くことこそ、戦争の本当の姿を描くことになると気づいたから」という。夫妻は那覇市の首里に滞在し、戦争の爪痕の残る沖縄各地を訪ね歩いた。そして人々の証言を基に、スケッチを重ねていく。	1984.05.27	47分
NHK	ETV特集 インタビュー「ピカは人が落とさなきゃ落ちてくん」	自らの被爆体験を見つめ、戦争の非人間性を告発する作品を発表し続ける人がいる。芥川賞作家・林京子さんの最新作は長崎の被爆少女の青春を描く自伝的長編。画家・丸木俊さんは夫と「原爆の図」「沖縄戦」など大量虐殺を大画面に描く。2人が、被爆体験をいかに作品に結実させてきたかを語る。	1994.08.22	46分
NHK	にんげんどキュメント 沖縄へ、夫婦ふたりの旅路 ～遺骨収集の15年～ / 終戦60年企画	終戦から60年経つ沖縄に15年間通い、遺骨収集を続ける北海道在住の井上夫妻の姿を通し、60年前の沖縄戦の現実に触れる。◆北海道で農業ひとすじに明け暮れてきた二人の人生が大きく変わったのは16年前。農業の跡を継ぐ息子を事故で亡くし、畑を売り払って農業をやめた。1年後、以前から誘われていた沖縄戦没者慰霊団に参加し、戦場のあとを巡って野ざらしになっている遺骨に衝撃を受けた。それ以来、冬の1ヶ月半アパートを借り、戦時中に兵士や住民が身を潜めていた地下壕に入って地中に埋もれた数多くの遺骨を掘り起こし続けている。◆15年通ううちに、沖縄にも友達や知り合いが増えた。壕に入る時は、沖縄で遺骨や遺品の収拾を続けている国吉さんが同行する。遺骨が出なくなったら止めようと思って続けてきた15年、しかし年老いた体に危険な壕での長時間の作業は厳しい。両親を気遣う長男に、今年が最後と言って出てきた。	2005.06.03	43分
NHK (ラジオ)	特集オーディオドラマ 見よ、蒼い空に白い星	戦後60年。沖縄に住む元動員学徒が、自身の戦争体験を語る。1920年生まれ84歳。学徒動員で陸軍特別操縦見習士官となり、B29に体当たりするも生還。その後、鹿児島県知覧で同期の仲間を特攻とし見送るなど数奇な体験をする。彼へのインタビューとドラマを織りまぜ、平和希求の物語とする。作：毛利恒之、音楽：西村朗。出演：藤木勇人、久松夕子、最上莉奈、前原弘道ほか。◆第60回芸術祭放送個人賞（保科義久チーフディレクター）	2005.08.14	50分
沖縄テレビ放送	OTV報道スペシャル カメさんの背中	アメリカの占領統治下に置かれた沖縄で、逮捕・投獄などにさらされつつも、不屈の闘志で占領政策に立ち向かった政治家・瀬長亀次郎。2005年、没収されて届かなかった家族からの手紙が、アメリカ公文書館から取り寄せた資料の中から見つかった。獄中の父を気遣う娘の手紙さえ没収された時代から長い年月が経ち、今もなお沖縄には広大な基地が残る。その意味と、沖縄の将来像を問う。◆1952年、初の立法院（のちの県議会）議員選挙で最高得票を得て議員になった亀次郎は、4月の琉球政府創立式典で起立・宣誓を拒否、アメリカへの不服従を示した。アメリカは当然亀次郎を監視下に置き、1954年の人民党事件で逮捕され、弁護人なしの裁判の後、投獄。妻・フミは自身も市議会議員として活動しつつ、雑貨屋を経営して家族の暮らしを支え、亀次郎を支え続けた。	2006.05.31	48分

放送局	番組タイトル	概要	放送日	再生時間
琉球放送	山原シャンソン・わが命 石坂真砂・対馬丸を唄う	“山原（やんばる）シャンソン”の歌い手・石坂真砂さんが、学童疎開船「対馬丸」の沈没で失われた友の遺族を訪ね、思い出を語る。◆1944年8月、沖縄からの学童疎開船「対馬丸」は、鹿児島県鹿児島沖で米潜水艦の魚雷攻撃により沈没、800余りの幼い命が失われた。そして40年後、海に沈んだ友を想う石坂真砂さんのLPが完成した。石坂さんは沖縄本島北部の出身で、彼女の唄うシャンソンはその地名をとって山原シャンソンと呼ばれ親しまれている。	1984.08.09	42分
沖縄テレビ放送	第34回民教協スペシャル サンマデモクラシー	本土復帰前の沖縄を統括していたUSCAR（琉球列島米国民政府）とそのトップである「高等弁務官」。この沖縄の帝王と呼ばれた絶対権力者に対し、自治権をかけて闘った庶民たちのドキュメンタリー。◆当時、祖国復帰を願う沖縄の人々が日本の味として食べていた「サンマ」に、輸入関税がかけていた。しかし、関税がかかると指定された魚の項目に、サンマの文字はなかった。魚屋の女将・玉城ウシは、「関税が掛かっているのはおかしい」と琉球政府を相手に裁判を起こす。ウシおばあは、ラッパとよばれた弁護士・下里恵良とともに、最強の高等弁務官・キャラウェイに挑む。ウシが起こした「サンマ裁判」のさざ波は、いつしかアメリカを追いつめる「民主主義」をかけたビッグウェーブとなり、復帰運動の起爆剤となっていく。デモクラシーの国アメリカに対して沖縄の人々が訴え続けたのは、「民主主義とは何か」という極めてシンプルな問いかけだった。	2020.02.08	47分
琉球放送	新春クイズバラエティー オキペディア	“本物の沖縄”をより深く学び、百科事典「オキペディア」を作っていく、ウチナンチュのためのクイズ番組。沖縄県民タレントによる3チームが、地元・沖縄に関する様々なクイズ問題に挑む。司会はキャン×キャンの2人。◆「琉球大学はどっち？」1950年のアメリカ軍統治下に開学した琉球大学と、1972年の本土復帰後に開学した沖縄国際大学のキャンパス内の映像を見比べて、図書館や学食、学生の雰囲気などをヒントに、どちらが琉球大学なのかを答える。そして、クイズを通して戦後の沖縄の大学の歩みを学ぶ。◆「パーライ2択クイズ」アグー豚はどっち？沖縄で一番長い川はどっち？かぎやで風はどっち？ギネス記録を持つ地域イベントはどっち？Aサインはどっち？などなど、沖縄県民なら当然知っておくべき情報について、60秒という制限時間内で2者択一の解答をしていく。◆「伝統芸能・本物の継承者はどっちだ？」2010年に沖縄の伝統芸能「組踊」が、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された。沖縄には組踊の伝承のため、日々研鑽を積む人たちがいる。沖縄県民の誇るべき伝統芸能の本物の継承者と、県内でストリートダンサーとして活動する若者の所作を見比べながら、本物を見抜く。◆「高価な三線はどれだ？」沖縄の音楽に欠かせない楽器「三線」。沖縄県民ならば、三線の値打ちは見た目と音色ですぐ分かるはず。スタジオに持ち込まれた3丁の三線を比べて、最も値段の高い三線を見抜いていく。はたして、ミュージシャン・きいやま商店の解答は…。	2013.01.01	46分